

製品名: ATG4A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07291**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG4A APG4A AUTL2
別名	Cysteine protease ATG4A (EC 3.4.22.-) (AUT-like 2 cysteine endopeptidase) (Autophagin-2) (Autophagy-related cysteine endopeptidase 2) (Autophagy-related protein 4 homolog A) (hAPG4A)
遺伝子 ID	115201.0
SwissProt ID	Q8WYN0
免疫原	ヒト ATG4A ポリクローナル由来の合成ペプチド

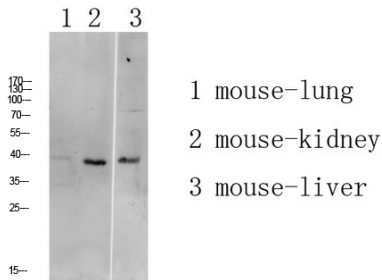
背景

オートファジーは、内因性タンパク質や損傷した細胞小器官を細胞内で破壊するプロセスです。オートファジーは、分化、変態、非アポトーシス性細胞死、そして老化における細胞の恒常性維持と細胞リモデリングに不可欠であると仮定されています。一部の悪性腫瘍ではオートファジーレベルの低下が報告されており、がんに関連する制御不能な細胞増殖の制御におけるオートファジーの役割が示唆されています。この遺伝子は、オートファジタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。また、コードされているタンパク質は、システインプロテアーゼの C-54 ファミリーのメンバーとしても指定されています。 [RefSeq 提供、2016年3月], 酵素制御: N-エチルマレイミドによって阻害される。 ,機能: オートファジーに必要なシステインプロテアーゼ。 MAP1LC3、GABARAPL2、または GABARAP の C 末端部分を切断し、フォーム I を遊離させる。フォーム I の一部はその後、より小さなフォーム (フォーム II) に変換される。 C 末端グリシンが露出したフォーム II は、ホスファチジルエタノールアミン (PE) 結合型と考えられており、オートファゴソームに結合する能力を有する。好ましい基質は GABARAPL2 であり、次いで MAP1LC3A と GABARAP である。 ,類似性: ペプチダーゼ C54 ファミリーに属する。 ,組織特異性: 広く低レベルで発現しており、骨格筋と脳で最も高い発現が観察される。胎児肝臓でも検出される。 ,

研究分野

オートファジーの調節;

画像データ



マウス肝臓溶解液のウェスタンブロット分析、抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。